

山口大学における男女共同参画を推進するために

山口大学イコール・パートナーシップ委員会は、この度山口大学における男女共同参画推進のための実態調査を行い、これをもとに提言集をまとめました。

まずここでは、「男女共同参画」とは、何なのか、どのようなことを言うのか、何を指すのかをわかりやすく説明したいと思います。「男女共同参画」の法律上の定義は男女共同参画社会基本法に明記されており、提言集の前文にもあるのでそれを参考にしてください。しかし、この「男女共同参画」という最近になってよく耳にする言葉が、実は私たちの日常生活の中からその重要性が確かめられなければならないはずなのに、きわめてあいまいに、抽象的に私達の意識にとどまることなく素通りしてしまう場合が多いのです。

「男女共同参画」とは、ひとことで言えば、男女という性別にとらわれることなく、一人一人の個性が輝く社会を目指そうということです。

大学の教職員に男性が圧倒的に多いのは当たり前なのでしょうか、自然なのでしょうか？同じように、上位級の役職にいけばいくほど女性の比率がさらに低くなるのはなぜなのでしょう？単に女性の構成上の比率が低いからだけなのでしょうか？

今、まさに日本社会や大学社会が変わろうとしている様子はいかがですが、男性が就くべき職位があり、同時に女性はここまで、という考え方は、当然のこのように男女を問わず皆の意識の中にありはしないのでしょうか？同様に、男性の役割、女性の役割というふうに、性別による役割分担を固定視してはいないのでしょうか？あるいは、「男は仕事、女は家事」をごく自然に受け入れていないのでしょうか？「男は男らしくあれ」、「女のくせに」という見方を自分でも気づかないうちにしてはいないのでしょうか？

男だから、女だから、ではなく、一人一人が個人として尊重され、男女は平等な（イコールな）良きパートナーであろう、それがあべき男女共同参画社会なのです。多様な価値観を認め、個性を大切にする社会の実現こそが、男女の性別を超えて、人間にとって真に豊かな生き方を指し示してくれる道しるべになるといえます。

しかし、長い間、男性中心の社会であった事実は否めません。だからといって、ここで過去の個人の責任を追及するものではありません。今、男女ともにその自覚と認識を深め、本当の意味での男女共同参画社会を目指す時期に来ているのです。

山口大学イコール・パートナーシップ委員会は、山口大学における男女共同参画実現と地域社会における男女共同参画推進のために、常に人権擁護と男女平等の立場に立って問題を提起

し、その問題解決に向けて提言を発信していく所存です。私たちの提案が大学から地域社会をも巻き込み、やがては社会全体の大きなうねりとなって発展していくことを願ってやみません。

この度の『山口大学における男女共同参画推進のための提言』は、男女共同参画社会実現に向けて、どこから手をつけていったらよいかをはっきりさせるために、まず山口大学の現状分析を中心に問題点をまとめました。来年度以降は、山口大学における男女共同参画に関する意識調査も実施し、より具体的に踏み込んだ問題提起ができるような活動を計画しています。この提言集が、皆さんが男女共同参画について考える時少しでもお役に立てれば、一つの目的を達し得たと言えましょう。

2002年3月 山口大学イコール・パートナーシップ委員会